

## 平成14年度研究成果発表会を開催

平成14年度の研究成果発表会を「共に創ろう 地域技術パートナー」をテーマに、7月17日（水）に当センターで開催し、県内企業の方々をはじめ各方面から113名の参加をいただきました。



研究発表会会場

今年度は、口頭発表7テーマとポスターセッション12テーマについて発表したところ、多くのの方々の聴講をいただき、さらに活発な質疑応答がなされ関心の高さがうかがわれました。



ポスターセッション会場

## 森園眞子研究員が黎明研究者賞を受賞



本賞は、林産学・木材学に関する研究発表の奨励と研究・技術開発の促進を目的として、日本木材学会九州支部が主催する支部大会での口頭発表・ポスター発表あるいは支部発行の木科学情報誌に掲載した論文のうちから審査し、毎年若干名を表彰するものです。木科学情報誌に投稿した「異樹種集成材製造システム開発 - 異樹種複合集成材の曲げ性能について - 」が評価されました。表彰式は、去る8月22～23日に開催された日本木材学会九州支部大会において行われました。

今回の研究は、平成11年度から12年度の2カ年にわたり、山佐木材（株）が中心となって進めてきた「異樹種複合集成材」に関する研究開発プ

ロジェクトの中で行ったものです。「異樹種集成材」とは、スギ材を構造材として利用拡大することを目的に、外層側にベイマツを配し、内層側にスギを配したものです。構造用集成材のJASでは、異なる樹種の混用を認めてはいましたが、技術的に難しいとされ、認定された事例はありませんでした。そこで、このプロジェクトではスギ材の間伐材や曲がり材の有効利用を目指し、約1mの短尺ラミナを製造する装置やプルフローダー等の機械開発等と併せて、異樹種集成材の強度性能や接着性能を把握するために様々な実験が行われてきました。

そして、7月29日付けで山佐木材（株）下住工場および中国木材（株）郷原工場の2工場が（財）日本合板検査会よりJAS認定工場としてスギとベイマツを混用する異樹種構造用集成材の製造認可を受けました。

## 工業技術センターの特許が登録

山佐木材（株）と工業技術センターにより共同出願していました「学校用木製学習机」が8月9日に特許として登録されました。

（特許第3337663号）

この特許は、集成材を利用した木製の学習机で天板の高さを3cm間隔で12段階に調整できるため、身長100cmから184cmまで対応できる等の特徴があり、入学から卒業まで同じ机を使うことができます。

特許の詳細等につきましては、企画情報部までご連絡下さい。



試作品

## 地域コンソに2件が採択

経済産業省の提案公募型技術開発事業である平成14年度地域新生コンソーシアム研究開発事業に、工業技術センター関連で2件採択されました。

1件は、鹿児島大学工学部の山下喜市教授をプロジェクトリーダーとする「GHz帯フレキシブル多芯ケーブル接続システムの開発」です。

参加メンバーは鹿児島大学、工業技術センター、（株）淵上ミクロ、大洋工業設計（株）及びソニーセミコンダクタ九州（株）です。実施期間は平成14年～平成15年度の2カ年間で、広帯域サービスなどIT時代の電子機器高速化の要請に対応可能なフレキシブル多芯ケーブル接続システムの開発、製品化を目指します。

2件目は、（株）アシップ代表取締役の米山兼

二郎氏を総括研究代表者とする「焼酎蒸留粕からのエネルギー完全自立・資源循環型商品システムの開発」です。

参加メンバーは（株）アシップ、長岡技術科学大学、鹿児島工業高等専門学校、宮崎大学、南日汽缶工業（株）、（株）荏原製作所、工業技術センターです。実施期間は平成14～15年度の2カ年間で、焼酎蒸留粕から蘇生紙ポット製造と超高速メタン発酵技術を組み合わせて、エネルギー自立型の新規システムを開発するものです。

なお、本提案公募事業への応募件数は357件で、全採択件数は49件、九州では8件採択されました。

## 都市エリア産学官連携促進事業に採択

文部科学省の都市エリア産学官連携促進事業に、工業技術センター関連で採択されました。

鹿児島大学の檜作名誉教授を科学技術コーディネータとする「食の安全と健康」です。参加メンバーは鹿児島大学（農学部、医学部、歯学部）、工業技術センターおよび5社の民間企業です。実施期間は平成14～16年度の3カ年間で、安全

を提供する機能性食品の開発、生活習慣病や老化の抑制をめざす機能性食品の開発、食品成分が持つ健康増進効果の総合的検証システムの確立などを目標としています。なお、本提案公募事業への応募は33の地域からあり、19地域が、九州では3地域が採択されました。